

2026（令和8）年度
香川県立保健医療大学大学院
保健医療学研究科
博士前期・後期課程
臨床検査学専攻

学生募集要項

- 出願期日 2025（令和7）年10月1日（水）～10月8日（水）
- 試験期日 2025（令和7）年10月18日（土）



香川県立保健医療大学

The Graduate School of Kagawa Prefectural University of Health Sciences

博士後期課程

目 次

I	募集人員	1
II	選抜区分	1
III	出願資格	1
IV	事前相談	2
V	出願資格審査	2
VI	出願手続	4
VII	入学願書等の記入要領	10
VIII	選抜方法等	11
IX	合格発表	13
X	入学手続等	14
XI	ホームページ	15
XII	問い合わせ先	16

保健医療学研究科

I	基本理念	17
II	アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー	17
III	博士後期課程(臨床検査学専攻)の概要	19
1	専攻の名称及び構成	19
2	学位の名称	19
3	博士後期課程における教育研究	19
4	授業科目一覧	21
5	修了要件等	21
6	授業科目の概要	22

I 募集人員

研究科名	専攻名	募集人員
保健医療学研究科	臨床検査学専攻	2人（社会人選抜を含む）

II 選抜区分

「一般選抜」及び「社会人選抜」を行います。ただし、出願できるのはいずれか一方であり、出願後に選抜区分を変更することはできません。

III 出願資格

1 一般選抜

出願できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 修士の学位又は専門職学位（学校教育法第104条第1項の規定に基づき学位規則（昭和28年文部省第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者及び2026（令和8）年3月までに取得見込みの者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2026（令和8）年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2026（令和8）年3月までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2026（令和8）年3月までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び2026（令和8）年3月までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
 - ア 我が国の大学を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本大学院研究科において、当該研究の成果等により修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - イ 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育の16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本大学院において、当該研究の成果等により修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (8) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2026（令和8）年4月1日までに24歳に達している者

※ 出願資格(7)又は(8)により出願を希望する者は、出願前に個別の出願資格審査が必要です(「V 出願資格審査」を参照してください)。

2 社会人選抜

社会人選抜の出願者は、「1 一般選抜の出願資格」のいずれかに該当し、医療・保健・福祉施設、教育機関、官公庁、企業等において3年以上の専門的な実務経験(通算可)を有する者(2026(令和8)年3月31日までに該当する見込みの者を含む)。

注 大学院設置基準に基づく授業時間などの特別措置

社会人の方が働きながら学べるよう、大学院設置基準第14条の規定により、必要に応じて、夜間、土曜その他特定の時間又は時期に授業・研究指導を行う途を設けています。

また、申し出により標準修業年限(3年)を超える一定期間の計画的な履修を認めることも可能としていますので、希望される方は、次の「IV 事前相談」における相談の際に、あわせて教員に相談してください。

IV 事前相談

出願を希望する者は、全員、出願前に入学後の研究等について、教員と相談することが必要です。事前相談をせずに出願することはできません。

希望する特別研究の専門領域と教員の選択に当たっては、博士後期課程の「臨床検査学専攻の研究領域における研究概要と研究指導教員」(20ページ)及び「講義等の内容」(25～35ページ)を参照してください。

事前相談の申込みは、2025(令和7)年8月5日(火)～9月17日(水)までに、香川県立保健医療大学事務局教務・学生担当(TEL087-870-1212)まで連絡し、希望する教員と事前相談を行ってください。なお、この申込みの受付時間は、午前9時から午後5時まで(土曜、日曜及び祝日を除く)とします。

また、次の「V 出願資格審査」を希望する者は、当該申請前まで(2025(令和7)年9月17日(水)まで)に事前相談をすませておく必要がありますので、留意してください。

V 出願資格審査

一般選抜出願資格(7)又は(8)(社会人選抜で一般選抜出願資格(7)又は(8)に該当する者を含む)で出願を希望する者は、あらかじめ、出願資格の審査を行いますので、「2 提出書類」を封筒(封筒表面に「保健医療学研究科出願資格審査申請書類在中」と朱書きしてください)に入れ、「簡易書留郵便」で郵送又は持参してください。

1 申請期間

2025(令和7)年9月3日(水)から9月17日(水)まで

- ・郵送する場合 9月17日(水)午後5時必着とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。
ただし、土曜、日曜及び祝日は受け付けません。

2 提出書類

提出書類のうち、「大学ホームページからダウンロード」と記載のある書類は、本学ホームページ (<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/admission/>) からダウンロードして印刷・記入してください。

(「本学入試情報ページ」→「入学試験 大学院 入試について」→
「臨床検査学専攻 博士後期課程」→「募集要項・出願書類」)

- (1) 出願資格審査申請書 (大学ホームページからダウンロード)
- (2) 最終出身学校等の卒業 (修了) 又は卒業 (修了) 見込証明書
- (3) 最終出身学校等の成績証明書又は調査書等 (出身学校等の長が作成し、厳封したもの)
- (4) 臨床検査技師、薬剤師等の国家資格者としての実務経験を有する者は、その免許証の写し (A4サイズに縮小のこと) 及び在職期間証明書 (大学ホームページからダウンロード)
- (5) 審査結果通知返信用封筒 (長形3号の封筒の表面に申請者の住所、氏名、郵便番号を記載し、460円分 (簡易書留料金含む) の郵便切手を貼付したもの)

※1 上記書類の作成に際しては、「VI-2【STEP4】提出が必要な出願書類等」の摘要欄及び「VII入学願書等の記入要領」を参照してください。

※2 **申請書類受理後は、提出された書類は、理由のいかんを問わず返還しません。**

※3 婚姻等による改姓により、現在の氏名と卒業証明書、免許証等の氏名が相違する場合は、戸籍抄本を提出してください。

※4 郵便料金の改定が行われた場合は、新料金の切手を貼付してください。

3 提出先

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当 (TEL 087-870-1212)

4 審査結果の通知

出願資格の審査結果は、本人あてに郵送します。

2025 (令和7) 年 10 月 1 日 (水) までに届かない場合は、前記「3 提出先」に電話で照会してください。なお、認定された方は、所定の期間内に出席手続をしてください。

VI 出願手続

1 出願期間及び出願方法

2025（令和7）年10月1日（水）～10月8日（水）まで

- ・郵送する場合 10月8日（水）**午後5時必着**とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。
ただし、土曜、日曜及び祝日は受け付けません。

出願は、上記期間内に①「香川県電子申請・届出システム」でのインターネット出願登録、②入学選考料の納付、③出願書類等の提出によって完了します。（①②③のすべてを行わなければ出願が受け付けられません。）

※ 「香川県電子申請・届出システム」は、緊急の作業等のためシステムを停止する場合があるほか、受付期間終了の直前はシステムが混み合う可能性があるので、余裕をもって申し込みください。なお、使用される機器や通信回線上の障害等によるトラブルについては一切責任を負いません。

2 出願の流れ

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4	
出願前 の確認	・利用者登録 ・インターネット出願登録	入学選考料 の 納 付	出願書類等 の 提 出	・受験票の受取 ・受験

【STEP 1】出願前の確認

○必要なインターネットの環境

「香川県電子申請・届出システム」を利用してインターネット出願登録を行います。下記 URL 又は QR コードからアクセスしてください。なお、必要なインターネットの環境やシステムの使い方は、システム内の「ヘルプ」を参照してください。

香川県電子申請・届出システム

URL : https://apply.e-tumo.jp/pref-kagawa-u/offer/offerList_initDisplay

大学ホームページからもアクセスできます。

URL : <https://www.kagawa-puhs.ac.jp/admission/>

「本学入試情報ページ」→「入学試験 大学院 入試について」→

「臨床検査学専攻 博士後期課程」→「インターネット出願登録を行う」)

香川県電子申請・届出システム	大学ホームページ
	

○印刷できる環境の確認

入学願書等のファイルを印刷する必要があるため、印刷できる環境が必要です。自宅にプリンターがない場合は、学校やコンビニエンスストア等の印刷できる環境を事前に確認してください。

【STEP 2】利用者登録・インターネット出願登録

※今後変更になる場合がありますので、最新情報は「香川県電子申請・届出システム」で確認してください。

○利用者登録

「香川県電子申請・届出システム」の「利用者登録」において、利用者情報を登録してください。利用者登録せずに、インターネット出願登録を行うことはできません。

- ・利用者登録説明を読み、同意して進んでください。
- ・利用者区分、メールアドレスを入力して、登録してください。
- ・登録後にメールが送信されますので、メールを確認し、記載された URL より利用者情報登録（パスワード、氏名、住所等）を行ってください。

○インターネット出願登録

「香川県電子申請・届出システム」にアクセスして、インターネット出願登録を行ってください。

「香川県電子申請・届出システム」の操作方法・不明点に関する照会先	・「香川県電子申請・届出システム」画面上段の「ヘルプ」をクリックし、操作方法を確認してください。 ・不明点がある場合は、「ヘルプ」をクリックし、「よくあるご質問」又は「ヘルプ一覧」から照会してください。
----------------------------------	---

- ・「手続き申込」の検索キーワード欄に「香川県立保健医療大学大学院」と入力し、手続き一覧に表示された「2026（令和8）年度香川県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科 インターネット出願登録」をクリックしてください。
- ・（ログインしていない場合）「利用者登録」にて登録した ID・パスワードを入力して、ログインしてください。
- ・手続き説明をすべて読み、同意して進んでください。
- ・学生募集要項を参照しながら、下記項目を入力して確認へ進んでください。

■インターネット出願登録の注意事項

番号	入力項目	注意事項
1	志願課程等	○志願する課程・専攻・選抜区分を選択してください。

2	出願資格	○出願資格、学校名等及びその卒業年月を入力してください。 ○出願前の出願資格審査で認定を受けた者は、その認定番号を入力してください。 ○臨床検査技師又は薬剤師等の国家資格に係る免許を有している者は、その免許の種類、取得年月日及び免許番号を入力してください。
3	志願者情報	○顔写真は志願者本人の写真データをアップロードしてください。 【顔写真の規格】 ・無帽、正面、本人のみの上半身、背景なし、受験時に眼鏡を着用する場合は必ず眼鏡を着用して撮影されたもの ・縦横比がおおよそ4：3で撮影されたもの ・出願前6カ月以内に撮影したもの ・カラー・白黒のどちらでも可 ・ファイルサイズ：3MB以内 ・ファイル形式：png、jpeg、jpgのいずれか ○住所は、都道府県名から正確に記入し、アパート名、号室等も省略せずに入力してください。
4	合格通知送付先	○合格通知の送付先について、「現住所」と異なる送付先がある場合は入力してください。
5	納付情報	○希望する納付方法を選択してください。 ○選択した納付情報は、インターネット出願登録完了後は変更できません。

- ・「PDF プレビュー」で内容を確認し、修正が無い場合は、「申込む」をクリックしてください。
- ・申込完了画面が表示された後、「PDF ファイルを出力する」をクリックし、入学願書、写真票・受験票を**片面印刷**してください。

【STEP 3】入学選考料の納付

入学選考料は30,000円です。

下記いずれかの方法で納付してください。

○インターネット出願登録で「キャッシュレス決済」を選択した場合

- ・「香川県電子申請・届出システム」の「申込内容照会」をクリックし、手続き名「2026（令和8）年度 香川県立保健医療大学大学院 保健医療学研究科 インターネット出願登録」の「詳細」をクリックして納付へ進んでください。

- ・納付情報の「Omni Payment Gateway（NTT データ決済代行）でお支払い」をクリックし、決済方法を下記から選択して支払いへ進んでください。

（クレジットカード）

カード情報を入力すれば、決済が完了します。クレジットカードの名義人は志願者と同一である必要はありません。

（PayPay、au PAY、d払い）

画面に従って操作を行うと、決済が完了します。

○インターネット出願登録で「普通為替証書を購入して送付」を選択した場合

「香川県電子申請・届出システム」での操作は終了となります。ゆうちょ銀行又は郵便局にて普通為替証書を購入し、出願書類等とともに提出してください。

※香川県電子申請・届出システムから納付することはできません。

【STEP 4】出願書類等の提出

志願者は、出願書類等を一括して封筒に入れ、「**簡易書留郵便**」で郵送又は持参してください。

○提出用封筒を準備

角形2号封筒を準備し、本学ホームページからダウンロードした「宛名シート①（出願書類等提出用）」を貼り付けてください。

○提出が必要な出願書類等

出願書類等のうち、下記の摘要欄に「大学ホームページからダウンロード」と記載のある書類は、本学ホームページ（<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/admission/>）からダウンロードして印刷・記入してください。

（「本学入試情報ページ」→「入学試験 大学院 入試について」→

「臨床検査学専攻 博士後期課程」→「募集要項・出願書類」）

出願書類等	選抜区分		摘 要
	一 般	社 会 人	
入学願書	◎	◎	(香川県電子申請・届出システムからダウンロード) 入学願書を 片面印刷 してください。
履歴書	◎	◎	(大学ホームページからダウンロード) 「Ⅶ 入学願書等の記入要領」を参照して、必要事項を記入してください。
写真票・受験票	◎	◎	(香川県電子申請・届出システムからダウンロード) 写真票・受験票を 片面印刷 してください。

出願書類等	選抜区分		摘 要
	一 般	社 会 人	
卒 業 ・ 修 了 (見 込) 証 明 書	◎	◎	最終出身学校等の長が作成したものを提出してください。なお、本学を修了見込の者は提出する必要はありません。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
成 績 証 明 書	◎	◎	最終出身学校等の長が作成し、厳封したものを提出してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
修士の学位等授与 (見込) 証明書等	○	○	「Ⅲ 出願資格」の1-(2)で出願する者が提出してください。 学位授与機関が発行した授与(見込)証明書を提出してください。
志 願 理 由 書	◎	◎	(大学ホームページからダウンロード) 本研究科への志望動機を記述してください。
修士論文要旨	○	○	修士論文がある場合は、修士論文の要旨を提出してください。 (A 4判用紙に横書きで2,000字以内にまとめたもの)
修士学位取得後の 研究業績調書	○	○	修士の学位取得後、その成果をどのように公表してきたのか、どのような研究に発展させてきたのか等について記述して提出してください。 (A 4判用紙1枚程度に横書きでまとめたもの)
研究計画案	◎	◎	研究計画の概要を提出してください。 (A 4判用紙に横書きで1,200字程度にまとめたもの)
在 職 期 間 証 明 書	○	◎	(大学ホームページからダウンロード) 「Ⅲ 出願資格」の1-(8)で出願しようとする者で臨床検査技師又は薬剤師等の国家資格に係る免許を有している者又は社会人選抜で出願しようとする者が提出してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
承 諾 書	○	○	(大学ホームページからダウンロード) 在職のまま出願しようとする者は、所属長による承諾書を提出してください。
免 許 証 の 写 し	○	◎	社会人選抜で出願しようとする者又は「Ⅲ 出願資格」の1-(8)で出願しようとする者で臨床検査技師又は薬剤師等の国家資格に係る免許を有している者が提出してください。 ※ 臨床検査技師又は薬剤師等の国家資格に係る免許証の写しをA 4サイズに縮小してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。

出願書類等	選抜区分		摘 要
	一 般	社 会 人	
普通為替証書 (入 学 選 考 料)	○	○	入学選考料の納付方法で「普通為替証書を購入して送付」を選択した者は提出してください。 ※ 普通為替証書には何も記入しないでください。
証券送付書	○	○	(大学ホームページからダウンロード) 入学選考料の納付方法で「普通為替証書を購入して送付」を選択した者は提出してください。
受験票返送用封筒	◎	◎	(大学ホームページからダウンロード) 長形3号封筒を準備し、宛名シート②(受験票返送用)を貼り付けてください。宛名シートには、住所、氏名、郵便番号を記入し、切手を貼付してください。手続き完了後、受験票を返送します。
出 願 書 類 等 チェックシート	◎	◎	(大学ホームページからダウンロード) 出願書類等に不足がないか確認し、チェックして提出してください。
※1 ◎印は全員必須、○印は該当者のみ提出する書類です。 ※2 外国語で作成された書類には、必ず日本語訳を添付してください。それが困難な場合は、相談してください。 ※3 郵便料金の改定が行われた場合は、新料金の切手を貼付してください。 ※4 婚姻等による改姓により、現在の氏名と卒業証明書、免許証等の氏名が相違する場合は、戸籍抄本を提出してください。ただし、「V 出願資格審査」で提出した場合は不要です。 ※5 日本国籍を有しない者は、入学に際して、別途提出いただく書類があります。			

3 出願先

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当 (TEL 087-870-1212)

4 出願上の注意

- (1) 出願書類等に不備がある場合は、受理できませんので、十分注意してください。
- (2) 出願書類等に虚偽の記入をした者は、入学後であっても、入学許可を取り消すことがあります。
- (3) **受理した出願書類等及び入学選考料は、理由のいかんを問わず返還しません。**
- (4) インターネット出願登録完了後は、出願事項(志願課程等)の変更は認めませんので、注意してください。
- (5) 出願手続を完了した者には、受験票を郵送します。

なお、2025（令和7）年10月14日（火）になっても受験票が届かない場合は、前記「3 出願先」に電話で照会してください。

- (6) 障がいがある等、受験上特別な措置及び修学上特別な配慮を必要とする可能性がある入学志願者は、2025（令和7）年9月17日（水）までに、あらかじめ前記「3 出願先」に連絡し、相談してください。
- (7) 出願書類から取得した個人情報は、入学試験に係る資料としてのみ利用し、取得した個人情報第三者に提供することはありません。

VII 入学願書等の記入要領

◎ 共通事項

- ・ ※印の欄には、記入しないこと。
- ・ ※印の欄を除き、各書類の注意事項等にそって必要事項を入力・記入すること。
- ・ 記入に当たっては、黒色のペン又はボールペンを使用し、楷書ではっきりと記入すること。パソコン入力可能な出願書類等については、パソコンで入力した書類等の提出を認めます。
- ・ 香川県電子申請・届出システム及び大学ホームページからダウンロードする出願書類等は、**A4用紙に片面印刷**してください。

○ 入学願書

- ・ インターネット出願登録後、志願者情報（氏名・住所・電話番号等）に誤りがあった場合は、該当箇所を二重線で消し、赤字で修正後の内容を記入すること。なお、香川県電子申請・届出システムでの登録内容の修正はできません。

○ 履歴書

- ・ 西暦で入力すること。
- ・ 学歴は、高等学校卒業から入力し、大学は学部・学科（課程・専攻）名まで入力すること。職歴がある場合は、勤務先等を入力すること。なお、欄が不足する場合は、別紙として添付すること。

○ 写真票・受験票

- ・ 写真票・受験票・確認事項は切り離さないで提出すること。

○ 出願資格審査申請書

- ・ 「フリガナ」は必ず記入すること。
- ・ 西暦で記入すること。
- ・ 「履歴事項」欄の「学歴」は、高等学校卒業から記入し、大学は学部・学科（課程・専攻）名まで記入すること。職歴がある場合は、勤務先等を記入すること。なお、欄が不足する場合は、別紙として添付すること。

また、臨床検査技師、薬剤師等の国家資格に係る免許を有している者は、「免許」欄に取得年月日及び免許番号を記入すること。

- ・ 「現住所」及び「審査結果通知先」欄は、都道府県名から正確に記入し、アパート名、号室等も

省略せずに記入するとともに、郵便番号を必ず記入すること。また、提出後に変更があった場合は、直ちに連絡すること。

なお、「審査結果通知先」が「現住所」と同じ場合は、「同上」と記入すること。

- ・ 誤って記入した場合は、該当箇所を二重線で消し、赤字で修正後の内容を記入すること。

上記の他、各書類等に記載している注意事項に従って記入すること。

VIII 選抜方法等

入学者の選抜は、学力試験（専門科目、英語）及び面接の結果並びに出願書類等を総合して、総合得点で可否を判定します。

なお、総合得点が同点の場合は、専門科目の点数が高い者を優先します。

1 試験科目等

科目等	配点	備考
専門科目	200	専攻に関する専門的な問題
英 語	100	専攻に関する専門的な問題 ※英和辞書1冊の持込可（電子辞書は不可）
面 接	100	個人面接

※ 配点は、一般選抜と社会人選抜では異なります。

区 分	科目等	配 点
一 般 選 抜	専門科目	200
	英 語	100
	面 接	100
	合 計	400
社 会 人 選 抜	専門科目	225
	英 語	75
	面 接	100
	合 計	400

※ 社会人選抜は、一般選抜と同様に、専門科目は200点満点、英語は100点満点で採点し、専門科目を1.125倍とし、英語を0.75倍とします。

2 試験日程（一般選抜・社会人選抜共通）

試験日	試験科目等	時間
2025（令和7）年 10月18日（土）	受験者集合	9:00
	注意事項等連絡	9:00 ～ 9:15
	専門科目	9:20 ～ 10:50
	英語	11:10 ～ 12:10
	昼食	12:10 ～ 13:00
	受験者集合	13:00
	面接	13:10 ～

3 受験上の注意事項

- (1) 入学試験当日は、午前9時までに試験室に入り、受験票を机の上に置いて着席してください。
なお、受験票を忘れた場合は、係員に申し出て指示を受けてください。
- (2) 集合時間に遅刻した場合は、学力試験開始後 30 分以内の遅刻に限り受験を認めます。ただし、試験時間の延長及び面接試験における遅刻は認めません。
なお、面接は受験者ごとに開始時間が異なりますので、注意してください。
また、学力試験を受験しなかった者は、面接を受けることはできません。
- (3) 試験会場では、監督者の指示に従ってください。
- (4) 机の上には、受験票・HB又はBの鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・時計（計時機能だけのもの）・英和辞書1冊（英語の試験のみ（電子辞書の持込みは不可））以外のものは置かないでください。
- (5) 携帯電話、スマートフォン等は、電源を切ってカバンの中にしまっておいてください。
- (6) 昼食（飲み物を含む）は各自で準備してください。学内の自動販売機は利用できません。

4 試験会場

香川県立保健医療大学

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

TEL 087-870-1212

※1 試験会場は、最終ページの**入学試験会場案内図**を参照してください。

※2 試験会場の下見はできますが、建物内への立入りはできません。

※3 合否電報・電話の取扱い等の勧誘をする者があっても、**本学とは一切関係がありません。**

Ⅸ 合格発表

1 発表日・発表方法

2025（令和7）年 10 月 24 日（金）午前9時に、香川県立保健医療大学 アプローチ広場掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には、文書で通知します。

また、本学のホームページ（<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>）上においても、合格者受験番号を掲載します(同日午前9時過ぎの予定)。

なお、ホームページ掲載は、本学が情報提供の一環として行うものであり、公式の合格発表は、本学掲示板、合格通知書で行います。

2 追加合格

入学手続き者が入学定員に満たなかった場合には、追加合格を行うことがあります。

追加合格は、2025（令和7）年 10 月 31 日（金）午後5時以降、該当者あてに入学願書に記載された連絡先に電話で通知します。この電話連絡は、2025（令和7）年 11 月 4 日（火）までに行うよう配慮しますので、この期間は、入学願書の連絡先に所在する等、本人と直接連絡が取れるようにしておいてください。

なお、追加合格者の入学手続等については、追加合格通知時に指示します。

3 その他

- (1) **電話等による合否の問い合わせには、一切応じません。**
- (2) 合否以外の受験に関する問い合わせは、志願者本人が行ってください。
- (3) 入学試験成績の情報提供については、受験者本人の請求に基づき、次の要領により提供します。

- ・請求期間

2025（令和7）年 10 月 24 日（金）～2025（令和7）年 11 月 25 日（火）（土曜、日曜及び祝日を除く。）

- ・提供内容

科目別得点及び総合得点

- ・請求方法

受験者本人が、本学事務局窓口の本学の受験票を持参のうえ、請求してください。
(受付時間は、9：00～12：00 及び 13：00～17：00 です。)

X 入学手続等

1 入学手続の期間

2025（令和7）年10月29日（水）から10月31日（金）まで

- ・郵送する場合 10月31日（金）**午後5時必着**とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。

2 手続場所

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当（TEL 087-870-1212）

3 入学手続

- (1) 上記2の場所へ、「4 提出書類等」を一括し、簡易書留扱いの郵便又は直接持参により提出してください。
- (2) 上記1の期間内に入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱います。
- (3) 入学手続を行うのは、代理人でも差し支えありません。
- (4) **入学金は、納入後、理由のいかんを問わず返還しません。**
- (5) 詳細については、合格通知時に通知します。

4 提出書類等

- (1) 誓約書(本学所定様式)
- (2) 卒業(修了)証明書(卒業(修了)見込みで受験した者は、卒業(修了)証明書を別途指示する日までに提出すること。)
- (3) 学位授与証明書(学位授与見込みで受験した者は、別途指示する日までに提出すること。)
- (4) 入学金の領収書のコピー
- (5) 縦4cm×横3cmの同じ写真2枚(正面上半身無帽、背景なし、最近6か月以内に撮影したもの、カラー、裏面に専攻名・氏名を明記したもの)
- (6) ア 本人が2025（令和7）年4月1日以前から香川県内に住所を有している場合
本人の住民票（マイナンバーの表示がないもの）
イ 本人の配偶者又は一親等の親族が2025（令和7）年4月1日以前から香川県内に住所を有している場合
配偶者又は一親等の親族の住民票（マイナンバーの表示がないもの）及び本人との関係を証明する戸籍抄本

5 入学金（予定金額）

- (1) 県内者 197,400 円
- (2) 上記以外の者 366,600 円

※ 「県内者」とは、2025（令和7）年4月1日以前から引き続き香川県内に住所を有する者並びにその配偶者及び一親等の親族をいいます。

6 授業料（予定金額）

- (1) 年額 535,800 円
- (2) 各年度に係る授業料は、前期及び後期の2学期に区分して納付するものとし、それぞれの学期において納付する額は、年額の2分の1に相当する額とします。
 - ① 前期納付期限 4月末日 (267,900 円)
 - ② 後期納付期限 10月末日 (267,900 円)
- (3) 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新たな授業料が適用されます。

7 授業料等減免制度

経済的理由その他やむを得ない事情により授業料等の納付が困難であり、かつ学業成績が優秀であると認めた学生に対し、授業料等の全部又は一部を免除する制度等があります。

8 奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構による奨学金には、第一種奨学金（無利子）と第二種奨学金（有利子）の制度があります。

- ・ 第一種奨学金

特に優れた学生で経済的理由により著しく修学に困難がある者

貸与月額（2025（令和7）年度） 80,000 円、122,000 円のうち希望額を選択

- ・ 第二種奨学金

優れた学生で経済的理由により修学に困難がある者

貸与月額（2025（令和7）年度） 50,000 円、80,000 円、100,000 円、130,000 円、150,000 円のうち希望額を選択

※ 詳細については、独立行政法人日本学生支援機構ホームページ(<http://www.jasso.go.jp/>)を確認ください。

9 その他の必要経費等

入学後には、教科書、教材等に係る経費及び後援会費等が別途必要になります。

後援会費については次のとおりです。

- ・ 年会費 10,000 円
- ・ 教材用経費等 3年間分 40,000 円（予定）
- ・ 納付期限 4月末日（年会費は、2年次以降も必要です。）

なお、学生は傷害事故及び賠償事故等についての保険に加入しますが、当該保険料は後援会費の中から負担します。

10 その他

学生寮はありません。

XI ホームページ

大学案内や入試情報を掲載したホームページを開設しています。

URL <https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>

XⅡ 問い合わせ先

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当
〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

TEL 087-870-1212

Fax 087-870-1202

I 保健医療学研究科の基本理念・目的

人々の健康と自立の支援を基本理念として、保健医療の分野においてより高度で専門的な学術理論及び実践能力を修得するとともに、包括的な判断能力と指導力を有する高度専門職業人を育成することにより、保健・医療・福祉が連携した質の高い総合的サービスを提供し、高度な専門知識を持ち、新規かつ独創的な研究成果を発信する研究能力を持つ教育者・研究者を育成することにより、地域保健医療の質向上、人々の健康増進、ひいては、健康長寿社会の推進や次世代育成支援に寄与する。

II アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

1 アドミッションポリシー

本学大学院保健医療学研究科臨床検査学専攻では、基本理念・目的を達成するため、次のような資質を備えた人を求めています。

- (1) 臨床検査学の高度な専門知識と科学的検証能力の獲得に強い意欲を有する人
- (2) 臨床検査学領域における問題解決能力を備え、独創的な技術基盤の構築に向け強い意欲を有する人
- (3) 基本的な英語力を更に高め、国際専門誌の読解力や投稿への強い意欲を有する人
- (4) 臨床検査学領域における教育者・研究者を目指す人

2 カリキュラムポリシー

保健医療学研究科の教育研究理念、臨床検査学専攻の教育目的に則って、臨床検査学の学術的基盤に基づいた高度な専門性と学際性とのバランスを図り、研究領域における教育・研究の深化と発展を目指し、さらにこれを科学的に究めて新規かつ独創的な研究成果を発信できる人材、すなわち、臨床検査学の高度な専門的能力と広範な専門知識、更に科学的検証能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

臨床検査学専攻は、病態機能検査学及び病因解析検査学の2領域で構成する。

「専門共通科目」、「専門科目」と「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で構成し、「専門共通科目」は、1年次の前期に、臨床検査に関する幅広い研究テーマの研究課程における研究方法論を学修する1科目（「臨床検査学研究方法論」）を必修科目として、「専門科目」は、後期に高度医療専門職に必要とされる能力の獲得を目指し研究領域の教育研究について学修する4科目を選択科目として配置する。選択科目として、病態機能検査学領域では「病理病態検査技術論」と「神経生理機能検査技術論」の2科目を、病因解析検査学領域では「病原因子解析検査技術論」と「遺伝子検査技術論」の2科目をそれぞれ配置する。「専門共通科目」必修2単位、「専門科目」選択2単位以上の計4単位以上の修得とする。さらに個々の研究テーマについて独創的な視点から、研究仮説及び計画の立案、実験・解析・考察、仮説の立証を通して学位論文を完成させる、「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、3科目6単位の必修科目として配置する。

- (1) 「臨床検査学研究方法論」は、臨床検査に関する幅広い視野を有する教育者・研究者を育成するために、臨床検査に関する幅広い研究テーマに関する質の高い国際専門雑誌の英語論文抄読を行い、仮説の立案から仮説の科学的な検証に至るまでの研究課程における研究方法論について学修する。
- (2) 「病理病態検査技術論」は、消化器癌や乳癌等における癌の分子病理細胞診断に必要な技術と知識を深め、細胞接着因子の発現と上皮間葉転換による癌の浸潤、転移、悪性度に関する分子機構の解析について学修する。
- (3) 「神経生理機能検査技術論」は、神経変性疾患における活性酸素の役割や天然化学物質の生体内情報伝達機構への影響とその作用機序について学修する。

- (4) 「病原因子解析検査技術論」は、細菌感染症に対して抗菌薬を用いない全く新しい治療法の開発に繋げるための宿主-病原微生物相互作用研究やⅢ型分泌機構研究について学修する。
- (5) 「遺伝子検査技術論」は、遺伝子検査技術、遺伝学の基礎知識を更に深め、効率的な遺伝子検査の開発や遺伝子情報に関する情報リテラシーについて学修する。
- (6) 「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、開講は通年、1年次はⅠ、2年次はⅡ、3年次はⅢを配置し、それぞれ研究過程並びに博士論文作成過程の進度別に明示した3段階の到達水準を達成して進む順序性を設定する。満たない場合は、学修期間は4年、5年と延長する研究指導体制とする。
- (7) 専門的な研究を深化させるための「学術セミナー」を各年次に実施する。「学術セミナー」では、院生が特別研究や博士論文作成過程での課題を発表し、院生間並びに教員と院生間において相互に討論を重ね、多様な観点からの専門的な研究並びに学際的な観点からの研究の深化を図ることを目的とする。また、特色として、専門分野における豊かな学識を有する者を招聘しグローバルな視点から、教育・研究への動機づけが得られる教育研修を企画し、多様な観点から専門的な研究指導と学際的な研究指導が受けられる体制とする。

3 ディプロマポリシー

修了要件となる単位を修得するとともに、必要な研究指導を計画的に受けた上で、主論文（1編）を英文で作成し、査読制度のある国際又は全国学会誌に投稿、査読を経て単著又は共著筆頭の原著として発表する（印刷中の論文については、その旨記入し、アクセプトされたことが分かる証明書を添付する）。なお、主論文に関連する副論文（申請者が筆頭著者・共著者に入っている論文）の添付が望ましい。論文審査及び最終試験に合格し、下記の条件をすべて満たす者に臨床検査学の博士学位を授与する。

- (1) 臨床検査学領域における問題を発見し、解決に導く能力を有し、自ら研究仮説の立案、研究の遂行、仮説の実証ができること
- (2) 自らの研究について、社会への説明能力があり、国際又は全国学会誌に研究成果を発表できること

入試区分	募集人数	選抜方法	評価内容 点数	学力の3要素	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働して学ぶ態度
				アドミッション・ポリシー	・臨床検査学の高度な専門知識と科学的検証能力の獲得に強い意欲を有する人 ・臨床検査学領域における問題解決能力を備え、独創的な技術基盤の構築に向け強い意欲を有する人	基本的な英語力を更に高め、国際専門誌の読解力や投稿への強い意欲を有する人	臨床検査学領域における教育者・研究者を目指す人
博士後期	2名	専門科目 英語 面接	評価項目	200（比重*：50） 100（比重*：25） 100（比重*：25）	臨床検査学の高度な専門知識を有する。科学技術に対応する高度な技能をもつ。	高度な論理的思考力がある。高度な科学的な判断力をもつ。優れた表現力を備える。	高い責任感と優れた協調性を兼ね備える。主体的に協働して学ぶ態度があり行動できる。
					○	○	
					○	○	○

*合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合（％）

Ⅲ 臨床検査学専攻の概要

1 専攻の名称及び構成

研究科名	専攻名	領域名
保健医療学研究科	臨床検査学専攻	病態機能検査学領域
		病因解析検査学領域

2 学位の名称

博士(臨床検査学)

3 博士後期課程における教育研究

(1) 教育目的

臨床検査学の学術的基盤に基づいた高度な専門性と学際性とのバランスを図り、研究領域における教育・研究・実践の深化と発展を目指し、更にこれを科学的に究めて新規かつ独創的な研究成果を発信できる人材、すなわち、臨床検査学の高度な専門的能力と広範な専門知識、更に科学的検証能力を備えた人材を育成するため、以下の能力を修得することを目的とする。

- ① これまでに構築されてきた臨床検査学の学術的基盤を背景に、新しい臨床検査法や機器・試薬の開発など、臨床検査学の更なる発展に向けて国際的視野から貢献する能力を修得する。
- ② 臨床検査に関する幅広い視野を有するとともに、保健医療分野において総合的な判断力と遂行力を備え、組織の発展・変革を推進する能力を修得する。
- ③ 地域に先駆的・創造的研究成果を積極的に公開し、県民の健康増進、疾病予防等に貢献できる能力を修得する。
- ④ 臨床検査学に関連する学問領域の教育者・研究者や医療界のみならず産業界の研究者との学術交流を深め、広い視野から見据えた臨床検査学の学術的研究に参画できる能力を修得する。

(2) 教育課程の特色

博士前期課程は、「病態機能検査学」と「病因解析検査学」の2領域からなり、人々の「健康と自立」の支援を基本理念とした高度専門職業人の養成を教育目標としている。博士後期課程では、以上のような博士前期課程における基本理念を発展的に深化、継承し、臨床検査学の高度な専門的能力と広範な専門知識、更に科学的検証能力を備えた人材である高度医療専門職を育成するために、教育研究の柱は《病態機能検査学領域》と《病因解析検査学領域》の2領域とする。

(3) 研究の特色

地域の保健医療の質向上、人々の健康増進、ひいては、健康長寿社会の推進や次世代育成支援に寄与できる新規かつ独創的な研究成果を創出するため、以下のような特色を持った2つの研究領域とする。

それぞれの研究領域の研究対象として、病態機能検査学領域では、①さまざまな種類のがんに関する発がんメカニズム解明と病理組織検査や細胞診検査への応用、②さまざまな精神疾患の原因となる海馬での神経新生過程の解明を目指した個体から細胞レベルの組織学的、生化学的研究を含む。

病因解析検査学領域では、①細菌感染症の感染メカニズム解明と新たな感染防止策の考案、②様々な疾患の分子病態の解明に基づいた遺伝子関連検査法の問題点とその解決に向けた研究を含む。

臨床検査学専攻の研究領域における研究概要と研究指導教員

領域	専門科目	研究概要	研究指導教員
病態機能検査学	病理病態検査技術論	がん微小環境における細胞間相互作用に着目し、特に細胞のセンサーとして機能する一次繊毛を介した平面内細胞極性の制御機構や、細胞生存の要となるオートファジー活性制御の解析を通じてがんの進展メカニズム解明を目指す。特定の遺伝子変異ががん化やがんの悪性化に与える影響だけでなく、がん細胞と間質細胞間のシグナル伝達異常に注目し、より高度な細胞生物学、病理学的視点から癌の病態を理解し、新たな検査技術や診断法の開発に繋がる研究を実践する。	教授 水津 太
	神経生理機能検査技術論	成人において海馬や側脳室周囲において神経新生が起こっていることが明らかになり、その異常が様々な精神疾患の原因として示唆されている。正常な神経新生には神経幹細胞が生涯にわたって維持されることが必須であり、それには多くの因子が関与している。ここでは寿命関連転写因子 FOXO1 およびその転写調節する遺伝子の神経新生過程における機能を調べる。動物モデルを用いた組織学的解析、さらに神経幹細胞を取り出し、様々な生化学的、分子生物学的な手法を用いて細胞レベルでの解析を行っていく。これらを通して将来の研究に必要な展開能力や研究手法の習得を目指す。	教授 古山達雄
病因解析検査学	病原因子解析検査技術論	がん患者などの免疫低下宿主に対する緑膿菌などの日和見感染菌による致死性の高い腸管経由の内因性血液感染を防ぐ新たな防止策の考案を目指す。腸管上皮細胞層透過活性を示した緑膿菌について、分子生物学や細胞生物学の最先端の研究手法やカイコ等、無脊椎動物を用いた動物実験系を駆使して、どのような機構で本菌が腸管上皮細胞層から血液へトランスロケーションするのかを解明する。さらに、本菌のトランスロケーションに関わる遺伝子やタンパク質が特定されれば、それらの機能を阻害するような化合物を探索し、緑膿菌による腸管経由の内因性血液感染の新たな防止策の考案に繋げていく。	教授 奥田 潤
	遺伝子検査技術論	遺伝子検査技術、遺伝学の基礎知識を更に深め、実践に直結したグローバルスタンダードな知識と技術、さらに遺伝子情報に関する情報リテラシーの確立を目指す。近年、様々な疾患の分子病態が解明され、その成果に基づき、遺伝子関連検査法が開発され、診断や予防への応用が行われている。今後、新しい検査法の開発などが期待される一方で、遺伝子関連検査は複雑なプロセスで実施され、不慣れた医療従事者も多いことから、結果に対し総合的な解釈を行い診断しなくてはならない。遺伝子検査学として現在の問題点の把握、研究で明確にすべきテーマを確定し、自らが研究仮説を立て、研究計画に沿って研究を実践する。	教授 岡田 仁

4 授業科目一覧

科目区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門共通科目		臨床検査学研究方法論	1 前	2			○			オムニバス
専門科目	検査学領域 病態機能	病理病態検査技術論	1 後		2		○			演習
		神経生理機能検査技術論	1 後		2		○			演習
	検査学領域 病因解析	病原因子解析検査技術論	1 後		2		○			演習
		遺伝子検査技術論	1 後		2		○			演習
	小計（5 科目）		—	2	8	0	—			—
	特別研究科目	臨床検査学特別研究Ⅰ	1 通	2				○		
臨床検査学特別研究Ⅱ		2 通	2				○			
臨床検査学特別研究Ⅲ		3 通	2				○			
小計（3 科目）		—	6	0	0	—			—	
合計（8 科目）			—	8	8	0	—			—

5 修了要件等

博士後期課程修了の要件は、本研究科博士後期課程に3年以上在籍し、「専門共通科目」必修2単位、「専門科目」選択2単位以上、臨床検査学特別研究必修6単位の計10単位以上を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

6 授業科目の概要

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門 共通 科目	臨床検査学研究 方法論	臨床検査に関する幅広い研究テーマに関する質の高い国際専門雑誌の英語論文抄読を行い、臨床検査に関する幅広い視野を養うだけでなく、国際専門誌の読解力や英語力の更なる向上を目指す。その中で、論文中の独創的な視点、仮説の立案、実験・解析・考察、仮説の立証の進め方などについても具体的に学ぶ。 (オムニバス方式/全 15 回) (古山達雄/3 回) 最近の脈管形成過程に関する研究の概要と、その臨床への応用について文献講読を通して理解する。 (樋本尚志/2 回) 自己抗体が産生される機序を解明するためにどのような研究がなされてきたのか、その方法論と問題点について解説する。 (多田達史/2 回) 近年の脂質代謝に関する研究、特にリポ蛋白研究の文献を用い、その内容を理解することで研究の有用性や将来性、問題点について考察し、自身の研究能力向上を目指す。 (岡田 仁/2 回) 遺伝子、分子生物学分野の最新文献を参考にして、この分野での最先端の研究について議論を行う。 (池亀彰茂/2 回) 造血器腫瘍における血液検査学の文献を用いて、最新の検査方法や解析法について説明する。さらにその内容の問題点について議論し、独創的な視点での仮説の立案を促す。 (徳原康哲/2 回) 尿検査をはじめとする一般検査学に関連する研究について理解を深める。新たな研究テーマの立案、実験系の組み立て、検証、そして考察等、研究の進め方について体系的に理解することを目指す。 (大栗聖由/2 回) 最近の神経筋疾患に関する研究の概要と、その臨床応用に関する文献を購読して、最新の知見について理解する。	教授 古山達雄 教授 樋本尚志 教授 多田達史 教授 岡田 仁 准教授 池亀彰茂 准教授 徳原康哲 准教授 大栗聖由

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専 門 科 目	病態機能検査学領域	近年の医療・生命科学における目覚ましい進展は、がん研究、診断、治療法の領域に著しい進歩をもたらしている。しかしながら、本邦におけるがん死亡率は依然として主要な死亡原因の第一位に位置し、その増加傾向は依然として深刻な状況である。本講義は、このような背景を踏まえ、がんの多様な生物学的特性、最先端の診断技術、そして絶えず進化する治療戦略に関する知識を統合的に修得することを目的とする。 本特論では、特に、がん微小環境における細胞間相互作用に着目し、細胞のセンサーとして機能する一次繊毛を介した平面内細胞極性の制御機構、細胞生存に不可欠なオートファジー活性制御の解析を通じた、がんの進展メカニズム解明に関わる研究内容を概説する。	教授 水津 太
	神経生理機能検査技術論	近年神経科学の発展は目覚ましく、多くの神経疾患の病態や原因が明らかになってきている。かつて神経疾患は治らない病とされてきたが、それはもう過去のものとなってきている。本講義では、この目覚ましい神経科学の進歩および最新の検査方法について理解し、病因を解析する最先端の検査方法を開発するため必要な神経系の基礎的な構造、基本的な機能、高次脳機能について学ぶ。さらにさまざまな神経疾患の病態や原因解明のための検査方法、原因（仮説）などについて学ぶ。	教授 古山達雄
	病原因子解析検査技術論	予防接種の普及と抗菌薬の開発によって多くの微生物感染症が制御可能となり、先進国において微生物感染症はもはや脅威ではなく過去のもの、という風潮がみられた時期もあった。しかし、20 世紀終盤になってメチシリン耐性黄色ブドウ球菌、バンコマイシン耐性腸球菌、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性結核菌などの抗菌薬耐性菌による院内感染症や重症熱性血小板減少症候群、MERS コロナウイルス、HIV、風疹、プリオン、新型コレラ菌 0139 や大腸菌 0157 などによる新興・再興感染症が臨床のみならず社会でも大きな問題となり、現在もわれわれはそれら感染症の脅威に曝されている。細菌感染症に関しては抗菌薬の使用がその治療の主流であるが、全く新しい治療法を開発するための微生物病原因子に関する基礎研究も進められている。 本特論では微生物の病原性を解析するための先駆的な潮流である宿主-病原微生物相互作用研究やⅢ型分泌機構研究について概説する。	教授 奥田 潤

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専 門 科 目	病 因 解 析 検 査 学 領 域	遺伝子検査技術論	博士前期課程で修得した遺伝子検査の標準化、遺伝子検査技術、遺伝学の基礎知識をさらに深め、実践に直結したグローバルスタンダードな知識と技術を習得する。即ち、 ①遺伝子検査の標準化では、国際規格である ISO15189 の規準をベースに「染色体遺伝子検査の品質保証のための指針」を検査室に定着させるための実践方法を学ぶ。 ②遺伝子検査技術では、既存の分析法の臨床的実用性を序列化し、さらに汎用性のある検査法を選択し広範な施設で遺伝子検査が定着化する方法を提案する。 ③遺伝学情報の収集では、遺伝子情報に関する情報リテラシーを確立し、遺伝カウンセリングに必要な情報を具体的に拾い出し、実践できる力量を身に付ける。	教 授 岡 田 仁

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究Ⅰ	(概要) 研究領域における自らの研究課題を明確に決定し、博士論文作成に向けた全体的な研究計画書を立案する。①文献検討を通して研究課題を決定する。②研究課題決定の概要について第1回学術セミナーで発表し討論する。この学術セミナーでは、研究領域間の双方向の交流から独創性や新規性が高い研究成果を目指す。③研究デザイン、方法を検討し、研究計画を立案する。④研究者間の意見交換を通して、研究計画書作成上の課題を明らかにする。⑤研究計画書について研究科委員会の承認を得る。⑥研究遂行における研究倫理について本学で該当する倫理審査会の承認を得る。⑦研究計画書作成過程を自己評価し、自律的に研究テーマを焦点化、研究計画を立案するうえでの自己の課題を明確にする。この過程を通して、自律的に研究計画書を立案する能力を育成する。	
		がん患者などの免疫低下宿主に対する日和見感染症の制御は、超高齢社会を迎える先進諸国では重要な問題であり、緑膿菌など日和見感染菌による腸管経由の血液感染が引き金となる致死性の高い敗血症はもっとも早期に解決すべき問題の1つである。この問題を解決するには、従来の抗菌薬に加えて、新たな防止策の考案が必要とされている。現在までに明らかにされている緑膿菌の腸管経由の内因性血液感染機構について綿密な文献調査を行い、文献調査の結果に基づいて、研究仮説を立て、それを立証するためにはどのような実験系が必要かなど、具体的な研究計画を立案する。	教 授 奥 田 潤
		分子生物学や遺伝子解析技術の発展とともに、がん遺伝子や癌抑制遺伝子、細胞接着因子、miRNA等の解析が、その診断や治療、予後に推定に重要な役割を占めてきている。臨床においては、分子標的薬の適応や予後の推定に病理組織材料や細胞診材料を用いた遺伝子解析や発現解析が不可欠な検査となっている。特別研究Ⅰでは、消化器癌がんの細胞接着因子やがん遺伝子、シグナル伝達、アポトーシス等をターゲットとしたがんの生物学的特徴と臨床病理学的解析、診断、治療に関連する課題について文献検索や資料を収集し、研究計画を立案する。先行研究論文の抄読や研究デザイン、研究方法等を検討し、研究遂行に必要な材料、方法についての準備を行う。また、動物実験委員会や倫理審査委員会等の承認を得る。	教 授 平 川 栄 一 郎

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究 I	寿命決定に関わるインスリンシグナル経路上の因子である FoxO 転写因子の血管系ならびに神経系での生理機能を明らかにすることを研究目的とする。 特別研究 I では、当分野に関する現在までの知見を理解し、新規性をもった 3 年間で実行可能な研究テーマを明確にする。その上で研究計画を作成し、必要な実験方法の習得を行いながら実験を遂行する。	教 授 古山達雄
		自己免疫性肝疾患における自己抗体の産生、あるいは肝障害の惹起に関する機序を最新の分子生物学的手法あるいは遺伝子学的手法を用いて明らかにしていき、臨床的にどのような価値を有するか検証していく。この過程をととして、研究活動における新たな問題点や課題について自ら把握し、それらに対してどのように対処すべきかを自ら考案し、自分の考えをわかりやすく説明する能力を養成する。	教 授 樋本尚志
		糖尿病を代表とする生活習慣病は、年々増え続け、なかでも死因の上位を占める心疾患・脳血管疾患は動脈硬化症が原因といわれている。最近では、新規 VLDL・LDL-C 低下薬、HDL 増加薬が開発され、脂肪酸由来代謝産物、HDL 機能改善についても注目されており、糖・脂質代謝、動脈硬化に関連する新規サロゲートマーカーの研究・開発を目指す。研究対象として糖・脂質代謝に着目し、特にリポ蛋白代謝、リポ蛋白の構成リン脂質・脂肪酸、構造・機能的アポリポ蛋白などに関する国内外の研究動向、最新のトピックス・研究結果の分析、相互的ディスカッションを行い、問題点・疑問点を考察し、研究計画書を作成するとともに、研究課題を見いだせる能力を養う。	教 授 多田達史
		遺伝子を扱う分野は目覚ましい進歩がみられ、様々な疾患の分子病態が解明されてきている。その成果に基づき、検査学においても遺伝子関連検査法が開発され、診断や予防への応用が行われている。今後も研究により、新しい検査法の開発などが期待される。一方で、遺伝子関連検査は複雑なプロセスで実施され、不慣れな医療従事者も多いことから、結果に対し総合的な解釈を行い診断しなくてはならない。また遺伝子情報は個人情報も含むため、倫理的問題も存在する。特別研究 I では、遺伝子検査学として現在の問題点の把握、そして研究で明確にすべきテーマを確定する。自らが研究仮説を立て、検証していく実験計画を立案できることを目指す。	教 授 岡田 仁

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究 I	本研究では、依然として国民の健康を脅かすがんの克服に向け、その進展メカニズムを深く探求することを目指す。がん微小環境における細胞間相互作用に着目し、細胞のセンサーとして機能する一次繊毛を介した平面内細胞極性の制御機構や、細胞生存に不可欠なオートファジー活性制御の解析を重点的に自ら研究計画し実践する。具体的には、がん細胞の生存・増殖に重要な役割を担う AKT シグナル伝達経路、一次繊毛の構造と機能に不可欠な Inversin、そしてがん化・悪性化に関与する hTERT などの因子を取り上げ、分子機構を詳細に検討する。さらに、がん細胞と間質細胞間の複雑なシグナル伝達異常、例えば増殖因子やサイトカインによる細胞応答についても深く解析する。細胞生物学、病理学の高度な視点からがんの病態を精緻に理解することで、将来的にこれらの分子メカニズムを標的とした革新的な検査技術や診断法の開発に貢献できる研究者の育成、ひいては医療プロフェッショナルとしての確固たる基盤を養成することを目的とする。最新の研究動向を踏まえ、がんの多面的な理解を深めるとともに、臨床応用を見据えた先進的な研究を実践する。	教授 水津 太
		特別研究 I では、幅広い視野のもと、独自の研究テーマを明確にし、予備実験の結果をもとに、自律的に研究計画書、倫理委員会審査書類等を作成する。その中で、予備試験の必要性和、血球を中心とした表面抗原、細胞内抗原、細胞機能発現等の検査技術の様々な応用法、そして目的とする臨床貢献へ向けた新しい血液学的検査法の開発を考え、計画書等の記載方法を学ぶ。また、実験計画とその遂行から、仮設と結果から生じる問題について考察し、解決に導く能力を習得する。さらに、討論や審査内容の結果から、医療界だけでなく産業界へと視野を広め、研究計画書や倫理委員会審査書類の弱点を理解し、今後の研究遂行を可能とするための、初歩的な研究能力を育成する。	准教授 池亀彰茂
		尿や血液等の生体試料を用いた新規臨床検査法開発に関する研究を行う。生体内に存在するアミノ酸やその他の分子を検出する新規検査法の開発を目的とし、まず、研究計画を立案する。過去の研究報告を参考に、新たな研究内容を考え、そして実験系を組み立てる等、研究遂行に必要とされる能力を養う。また、実験手技に関する知識だけではなく、研究を行う際に必要な倫理的配慮等についても学習し、公正な研究活動を行うための行動規範についても理解を深める。	准教授 徳原康哲

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究 I	てんかんや意識障害を評価する脳波検査や神経筋疾患を評価する神経伝導検査の結果から、早期発見や早期鑑別診断が難しい病態が未だに存在する。未だに早期鑑別診断が難しい病態の検査結果に対して、コンピュータを用いた2次解析を行い、新たな鑑別点を見出すことを目的とする。 特別研究 I では、神経機能評価検査を用いた病態解析を行うことを目標とする。自ら課題を明確にし、博士論文作成に向けた研究計画を立案する。また、先行研究の文献検索を行い、研究方法論、研究倫理について学ぶ。	准教授 大栗聖由
		病原微生物がもつ病原因子に関して、新規の検査法や治療法につながる知見を得ることを目指し、未だ詳細な機序が明らかとなっていない病原因子に着目し、研究課題を決定し、研究計画を立てる。これらの過程を通して、文献から現在の情報をまとめる能力、そこから課題を発見する能力、その課題について研究仮説を立案する能力および仮説に基づいた研究計画を立案する能力を育成する。	講 師 末澤千草
		ミエロペルオキシダーゼ (MPO) は、そのほとんどが好中球 (わずかに単球) に存在する酵素で、過酸化水素と塩素イオンから次亜塩素酸を産生する。この次亜塩素酸は感染した微生物を効率的に殺菌する。MPO を測定することは、免疫機能にかかわる疾患や MPO-ANCA が検出される毛細血管及び小血管の壊死性血管炎を示す疾患などでは有効である。しかしながら、MPO の測定は自動分析装置を使用した測定法ではなく ELISA 法が主流である。そこで本研究では自動分析装置での測定系の開発を目指す。	講 師 太田安彦
		循環器の生理的な発生過程の背景にある分子機序を理解することは、循環器疾患の病態理解に繋がる重要な研究テーマである。しかしその分子基盤は非常に複雑であり、特に血管やリンパ管の発生・発達過程の分子メカニズムは臓器特異性、時期特異性が高いこともあって、その全貌は未だ解明されていない。このことを踏まえて血管、リンパ管の発生メカニズムを解明する研究を行う。特別研究 I では脈管生物学関連の重要論文を抄読し、関連分野の研究成果を検索してディスカッションすることにより、学術的興味を持って研究を進めることができる新規性の高い研究テーマを決定し研究計画を立案する能力を養う。	講 師 新美健太

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究Ⅱ	(概要) 研究計画書を吟味・検討し計画を実践する。①「臨床検査学特別研究Ⅰ」で、明らかになった課題を検討し、研究計画書を完成する。②研究計画に則ってデータ収集を開始する。③博士論文全体の研究計画に則って研究を実施し、関連論文(副論文)を作成、査読制度がある国内外の全国学会誌に掲載を達成する。④研究過程の進捗状況を第2回学術セミナーで発表し討論、新たな課題等を発見し、より完成度の高い博士論文を目指す。この展開では、独創性や新規性が高い研究成果を博士論文に反映する。⑤学術セミナーでの意見交換等の結果に基づき、博士論文完成に向けた今後の課題を明らかにする。この過程を通して、自律的に研究論文を作成、発表する能力を育成する。	
		特別研究Ⅰの研究計画に沿って、研究を実践する。特に、細菌感染症検査や抗菌薬を用いない細菌感染症の予防および治療に応用することのできる未知の知見を得ることを目的とする。	教授 奥田 潤
		研究計画に従い研究を実施、研究結果を蓄積し、まとめていく。研究の実施、結果の整理と解析、論文作成ができる能力を養成し、問題解決能力を涵養する。病理組織材料や細胞診材料、培養細胞を用いて実験を遂行し細胞接着因子やがん遺伝子、シグナル伝達解析を臨床病理学的解析とともに進める。また、必要に応じて動物を用いた実験を行い、遺伝子および蛋白レベルでの解析を行う。研究解析結果を学術セミナー等を通して意見交換を行い博士論文の構築、修正、評価を行う。	教授 平川栄一郎
		寿命決定に関わるインスリンシグナル経路上の因子である FoxO 転写因子の血管系ならびに神経系での生理機能を明らかにすることを研究目的とする。 特別研究Ⅱでは、計画した実験を遂行するのと並行して、得られた結果の解釈・さらなる検証の必要性等を教員と随時相談しながら、追加実験を行い、結果をまとめていく。同時に、学術セミナー等の意見や当該分野の状況を考慮し計画の検討・見直し作業を随時行う。	教授 古山達雄
		特別研究Ⅰの実験計画に従って、自己免疫性肝疾患における自己抗体の産生されるメカニズムや肝障害を起こす機構の新たな知見を得るべく、研究活動を継続する。なお、この過程をとおして研究活動の問題点やその解決方法について自ら考え、さらに自ら対処できる能力を養成する。また、自分の考えを図表を用いてわかりやすく説明する能力も習得する。	教授 樋本尚志

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究Ⅱ	特別研究Ⅰで自ら立案した研究計画に沿って、指導教員の指導を受けながら研究を遂行し、データをまとめる。データの統計学的解析手法の検討や検定を行い、結果についての考察を行う。さらに、博士論文全体の進捗状況について中間報告会にて報告する。プレゼンテーション能力、学際的な討議や意見交換能力を養い、論文完成に向けての課題を明確化し、関連論文（副論文）を作成し、査読制度のある国内外の学術雑誌に投稿する。	教 授 多田達史
		特別研究Ⅰの研究計画に沿って、研究を実践する。将来、科学的検証能力を備えた研究者として、遺伝子関連研究のハンドリングについてマスターすることに重きを置いている。実験を行う際の安全性の確保そして研究活動における倫理的問題（動物実験および臨床研究）についても学ぶ。	教 授 岡田 仁
		特別研究Ⅱでは、特別研究Ⅰで立案し実践した研究成果を基に、学術論文作成から発表までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。研究データの精査・解析を深化させ、論文構成・執筆スキルを習得。投稿先学術雑誌の選定から論文投稿、査読対応までを経験する。研究成果の考察や議論の展開を学び、学会発表を通して社会への発信を目指す。本研究を通して、受講生は自立した研究者として、国際的な学術コミュニティに貢献するための高度な知識と実践的な能力を習得することが期待される。	教 授 水津 太
		特別研究Ⅱでは、臨床貢献できる血液学的検査法（安価、簡易、精度）を目的とし、血球を中心とした表面抗原、細胞内抗原、細胞機能発現についての研究を行う。研究を実践的に進めて、結果をまとめ、各種の解析方法の学びとともに、研究成果の発表の仕方を習得する。また、発表することで、あらゆる方向から研究の課題を明確化することを学ぶ。さらに意見交換を行って、課題を追求し、研究の軌道修正を行い、研究を続行して、論文を完成し、国内外の雑誌に投稿することで、研究者としての一連の基本的な能力を育成する。	准教授 池亀彰茂
		特別研究Ⅰで立案した研究計画に沿って実験を行う。さらに、得られた実験結果を統計的手法等により分析し、実験報告書の作成やプレゼンテーション方式による発表を行う。また、仮説通りに研究が進まなかった場合は、実験結果を考察したうえで計画を修正し、新たな追加実験を行う。このように、研究結果を解析して発表する能力や、実験計画を修正しながら研究を進めていく能力を養う。	准教授 徳原康哲

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究Ⅱ	特別研究Ⅱでは、自ら立案した研究計画書について吟味、検討した後、データを収集し研究を遂行する。研究遂行時は、得られた結果の解釈やさらなる検証の必要性について、教員と協議しながら研究内容をまとめていく。また、研究計画や進捗状況についてまとめたものを、論文や発表スライドとして作成し専門学会で報告する。同時に、学際的な討議や意見交換の能力、わかりやすくまとめる力、プレゼンテーション能力を習得する。	准教授 大栗聖由
		特別研究Ⅰの研究計画に沿って、研究を実践する。未だ詳細な機序が明らかとなっていない病原因子における、新規の検査法や治療法につながる知見を得ることを目的とする。研究活動の過程を通して、実験を実施する能力、実験データを解析する能力、実験結果について考察する能力を育成する。	講 師 末澤千草
		臨床検査学特別研究Ⅰの研究計画に従って、研究を実践する。実験における手法及び論文作成を習得することを目的とする。得られた実験結果を統計的手法等により分析し、得られた結果の解釈やさらなる検証の必要性について、教員と協議しながら研究内容をまとめていく。さらに意見交換を行って、課題を追求し、研究を続行して、研究者としての一連の基本的な能力を育成する	講 師 太田安彦
		特別研究Ⅰで作成した研究計画に則り、脈管生物学分野の分子生物学的研究を遂行する。実験により得られた成果は随時教員とディスカッションし、データの取扱い方、データ解釈の方法、トラブルシューティングの考え方などを習得する。将来的に独立した研究者として自律的に研究を遂行できる基礎能力を育成する。	講 師 新美健太

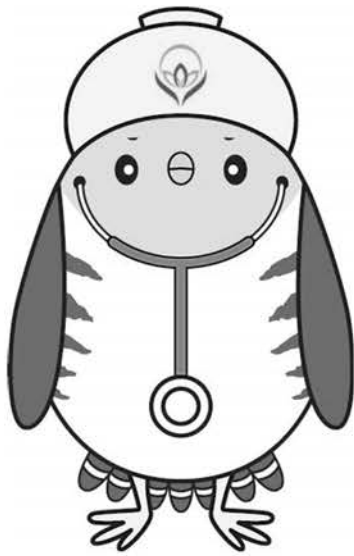
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究Ⅲ	(概要) 研究過程を推進し、博士論文を完成する。①研究計画に基づき、データを収集し、目的に沿った方法で分析する。②分析結果を論述し、研究目的に沿って、結果を考察、結論を導き出す。③博士論文の総括に関する概要について第3回学術セミナーで発表し討論する。この学術セミナーでは、専門領域間の双方向の交流から独創性や新規性が高い研究成果の発信を目指す。④他者からの意見や指摘等について検討を重ね、必要に応じて博士論文を修正する。⑤博士論文を完成し博士学位を取得する。⑥博士論文作成の過程を自己評価し、研究者として自律的に独創的な研究を推進するための課題を明確にする。博士論文審査・発表を通して、論文作成過程を自己評価し、研究者として自律的に独創的な研究を推進する能力を育成する。	
		特別研究Ⅱの研究活動により得られたデータを英語でまとめ、査読制度のある国際又は全国学会誌に主論文として発表する。また、主論文に関連する副論文も発表することが望ましい。最終的に発表した主論文および副論文の内容を統合し、論文審査及び最終試験に合格し、博士学位を取得する。以上のような臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの指導を通して、将来、何事も自分で解決できる、科学的素養を備えた世界に通用する博士号取得研究者の育成を目指す。	教授 奥田 潤
		研究計画に基づき研究結果の分析を進め、博士論文全体の再構築、修正を行ないながら博士論文の完成を目指す。特別研究Ⅰ・Ⅱで得られた結果をもとに考察を深め論文を作成し、国際誌への論文投稿を行う。また、論文審査と学会発表等を通して、意見交換を重ね、自律的で独創的な研究課題を明らかにし、科学的思考力の総括を行う。特別研究を通じて得られた技術や知識、経験をもとに研究プロセスを自己評価し、教育研究者としての能力を育成する。	教授 平川栄一郎
		寿命決定に関わるインスリンシグナル経路上の因子である FoxO 転写因子の血管系ならびに神経系での生理機能を明らかにすることを研究目的とする。 特別研究Ⅲでは、実験結果の整理・検討・まとめを行い、必要に応じて追加実験を行う。適宜、学会での発表を行い、最終的に英文で論文を作成し、学術雑誌への投稿、掲載までの一連の作業を経験する。これらを通して得られた結果を発信していく方法を学ぶ。	教授 古山達雄

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究Ⅲ	特別研究ⅠおよびⅡの研究活動によって得られた研究成果を英文で博士論文としてまとめ、査読付きの科学雑誌に投稿する。査読者の意見に従って修正、または追加実験を行ったうえで博士論文を完成させる。この過程をととして、高度な専門知識を有するのみならず、研究成果をまとめあげ、新たな現象に対する理論的裏付けができ、図表を用いて簡潔明瞭にプレゼンテーションできるなどの科学的査証能力を育成する。	教 授 樋本尚志
		特別研究Ⅱを通して、リボ蛋白機能評価に関する臨床検査法における研究課題を明確化し、追加実験を行う。論文作成を目的にデータをまとめ、英文科学雑誌へ論文を投稿する。査読評価などから考察を深め、博士論文完成を目指す。博士論文作成の過程により、自律的に独創的な研究推進能力を養う。関連学会発表や博士論文審査を通して、研究する。特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して、研究者として、自律的に独創的な研究を推進する能力を備え、博士号を取得した臨床検査技師育成を目指す。	教 授 多田達史
		特別研究Ⅱの研究活動により得られたデータをまとめ、学会および論文発表を行う。グローバルスタンダードに対応するため、英語でデータをまとめ国際学会そして欧文学術誌に発表できるようにする。さらに博士学位を取得の準備を行う。特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの指導を通して、国際的視点を持ち科学的検証ができる博士号取得臨床検査技師の育成を目指す。	教 授 岡田 仁
		特別研究Ⅲは、特別研究Ⅰ・Ⅱで培った研究遂行能力と論文発表経験を基盤とし、より高度な自律性と国際性を備えた研究者を育成する。受講生は、独自の研究テーマを深化させ、最先端の研究デザインと方法論を探究する。指導教員の助言を得ながらも、研究プロジェクトを主体的に計画・実行し、データ解析から論文作成までを自律的に行う能力を強化する。国際的な研究動向を常に把握し、学会や研究集会で積極的に議論に参加することで、国際的な視野を広げる。研究成果を学術論文として発表するだけでなく、特許申請や社会実装、新たな研究領域の開拓など、多角的な展開と応用を目指す。高度な研究活動に必要な研究倫理を深く理解し、責任ある研究を実践する。研究室運営や後輩指導にも貢献し、研究コミュニティの一員としての役割を果たす。本研究を通して、受講生は独立した研究者として、国際的な研究領域でリーダーシップを発揮し、新たな学術的価値を創造できる高度な能力を習得することが期待される。	教 授 水津 太

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究Ⅲ	特別研究Ⅲでは、投稿論文に対する査読内容についての研究の見直し、計画、査読者への説明等を学ぶ。更なる軌道修正がある場合は、その課題を解決に導くための方策を考え、論文受理に向けて努力し、受理された達成感を味わう。さらに自らの研究について説明する能力を養い、博士論文審査・発表からも、研究の楽しさと難しさ、達成感を学ぶ。特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して、臨床貢献できる血液学的検査法（安価、簡易、精度）の開発とともに、課題に対する独創的な意見、研究実践力、発信能力を持つ研究者の育成を目的とする。	准教授 池亀彰茂
		特別研究Ⅱで得られたデータをまとめたうえで論文の構成を考え、そして推敲する。作成した論文を査読制度のある英文学術誌に投稿し、掲載を目指す。その過程において、投稿規定に合わせた論文の作成方法、さらに、査読者からの指摘に対する対応等、学術論文を発表するまでに必要とされる能力を養う。また、これまでの研究成果は、報告会や学会で適宜発表する。特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して、自らテーマを立案して実験を行い、研究成果を学会や論文で発表できる博士号取得研究者の育成を目指す。	准教授 徳原康哲
		特別研究Ⅱの研究活動により得られた研究データを博士論文としてまとめ、査読付きの科学雑誌に投稿する。そして、博士論文審査・発表を通して、論文作成を自らの力で行える能力を身につける。また、先駆的实践指導ができる管理者、教育・研究者として、自律的・独創的な研究を推進する能力を育成する。	准教授 大栗聖由
		特別研究Ⅱの研究活動により得られた実験結果を英文でまとめ、査読制度のある国際誌または全国学会誌に投稿する。査読に対する対応、追加実験が必要な場合の対応などを含め、自らの研究成果を社会に発表する能力を育成する。特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して、自律的に独創的な研究を推進できる博士号取得臨床検査技師の育成を目指す。	講 師 末澤千草
		特別研究Ⅱによって得られた実験結果を英語論文にまとめ、査読付きの国際または全国誌に投稿する。また、論文作成能力や関連学会において研究成果を発表し討論できる能力を養う。また、博士論文審査、発表を通して論文作成を自らの力で行える能力を身につける。	講 師 太田安彦

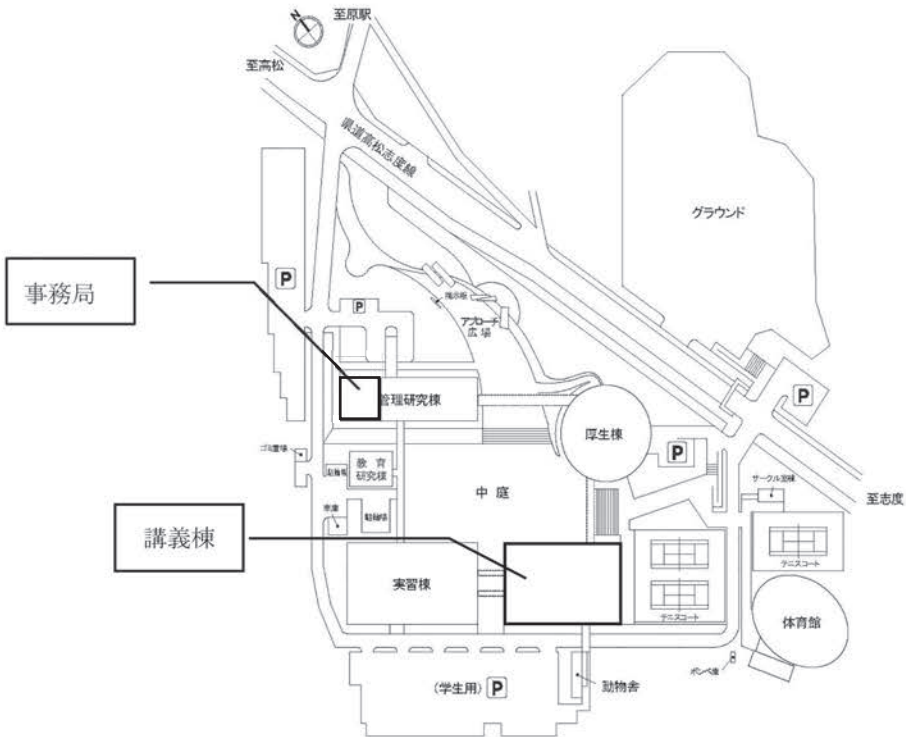
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特別 研究 科目	臨床検査学 特別研究Ⅲ	特別研究Ⅱで得られた研究成果をまとめ、秩序立てて論理的に構成し原著論文として国際的な学術誌に発表する。その過程において、再実験、追加実験が必要になることもある。論理的で科学的な文章の作成、査読意見対応を経験し、自律した研究者として研究成果を世界に向けて発表する方法の習得を目指す。特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して、興味深い研究テーマを探索して仮説を立て、仮説を立証するための実験を計画・遂行し、その成果を国際的に公表するという一連の研究活動を主体的に行うことができる能力を育成する。	講 師 新美健太

大学までの交通案内



- 西方面から
高松から 国道11号 車で30分
ことடன்志度線原駅下車 徒歩10分
- 東方面から
JR高德線 志度駅から 車で5分

入学試験会場案内図





香川県立保健医療大学

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281番地 1

TEL 087-870-1212

ホームページ

<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>